



### チャレンジ

歯学科1年 笠原由伎

私たち1年生は、五十嵐キャンパスで教養を勉強しています。2年生からの残りの五年間は旭町キャンパスで専門について学ぶため、他学部の人達と一緒に幅広く勉強できるのは一年生の一年間のみです。いろいろな種の学問を学んで視野を広げ、物事を柔軟に考えて総合的に判断する力を養えるよう、日々を大切に、積極的に勉学に励んでいます。

前期には、早期臨床実習がありました。早期臨床実習とは、新潟大学病院内で、歯科の手術や治療の見学、患者様の病院案内などを通し、歯科医学へのモチベーションを高めるものです。教養も魅力的ですが、この実習は私にとってさらに価値ある、有意義なものでした。大学に入学するまでの受験勉強は机に向かって何時間も居座り、ただひたすらに紙の上で手を動かすものでしたが、この実習は、自分の目で見て、現場の空気を感じて、経験するため、いろいろな視点から歯学について、また歯科医について学べました。まず一つは、患者様とコミュニケーションをとり、信頼関係を築いた上でないと治療が成り立たないことです。先生方が治療している現場を見ていると、ただ治療するだけでなく、患者様に積極的に話しかけ、話によく耳を傾けて意思疎通を図っていることに気が付きました。技術のほかに、患者様を安心させ、信頼される人間性が重要なのだな、と思いました。また二つ目は、病院にいらっしゃる患者様がどれだけ辛い思いをしていて、痛みや苦しみを抱えているかということです。新来の患者様に病院案内する際にお話しをしてわかったのですが、治療を受けたくないけれどもやらなければならないのでしぶしぶ来ている、いろいろな病院に行っても治

らないから、最終的に大学病院に来た、という方がいらっしゃいます。せっかく勇気を持って治療するために病院に足を運んで下さるので、患者様には誠実に、丁寧に接しないといけないと感じました。私はこの実習を通して歯学部生としての自覚ができ、また、将来の理想像を描くことができました。

さらに、私は大学で支援している、ダブルホームに入っています。ダブルホームとは、異なる学部の生徒と教職員で構成されるグループが、地域住民との交流で人間的成長を目指すものです。私はBホームに所属しており、新潟県長岡市小国町の森光に行き、地域の住民の方々と交流してきました。森光集落は、農業の衰退が集落の衰退につながると危機感を抱き、住民自ら主体となって農事組合法人 森光担い手生産組合を設立した地区です。森光集落産コシヒカリを「もりひかり」として商品登録して販売、独自ブランド吟醸「もりひかり」を製造、イベントでPR活動、都市民を迎えての体験交流などを行っています。私たちは、森光PRのために医学祭でおにぎりやみそ汁、ちまきや笹団子を作って販売しました。また、グリーンツーリズムの一環としてちまきや笹団子づくりに挑戦しました。

私にとってのこの一年は、経験すること、挑戦することの大切さをしみじみと実感した年でした。何事においても百聞は一見に如かずです。一つ経験すれば、100学ぶことができます。大学生のうちにはしかできない、あるいは大学生のうちこそできることにこれからも積極的に「チャレンジ」して色んなことを吸収し、学び、充実した大学生を送っていきたいです。



## 大学生活のはじまり

口腔生命福祉学科1年 田嶋里菜

新潟大学に入学してから早9ヶ月が過ぎようとして、1年生であるのも残りわずかとなりました。これまでを振り返ると、毎日が新鮮でとても充実した生活を送れているように思います。

まず前期を振り返ってみると、自分で受けた講義を選んだり、パソコンを使ってのレポート課題やパワーポイントの作成、発表をこなしたりなど、私にとって新しいことばかりでした。その中でも、最も印象に残っているのは、毎週金曜日に行われた早期臨床実習Ⅰです。この実習では、患者様付き添い実習、患者様役実習、治療見学実習の3つの実習をグループに分かれて行いました。患者様付き添い実習では新来の患者様をご案内させていただき、患者様役実習では6年生の先輩方のご指導のもと、自分の口腔内のチェックや実際に歯科衛生士のお仕事を体験させていただきました。そして、最後の治療見学実習では様々な診療科の見学をさせていただきました。歯学に関する知識も全くなく、病院内もしっかりと把握できていない私にとって、これらの実習は緊張の連続でしたが、それでも毎回、金曜日がまわってくるのがとても楽しみでした。これらの実習では様々なことを見て、聞いて、体験することができ、大変充実した時間を過ごすことができました。私はこの実習を通して、治療を受ける患者様の気持ちや今の自分に何ができるのかを考えることの大切さや先生方や先輩方の素晴らしさを改めて実感しました。

次に、今はまだ後期の途中ですが、後期でのこともお話ししたいと思います。私は、選択科目として「新潟発福祉学Ⅱ―障害者支援論―」という

集中講義を受講しました。この講義は、10月の初めに開催された「全国障害者スポーツ大会トキメキ新潟大会」に併せて開講された講義であり、私は、山形県選手団卓球競技のサポートボランティアとしてこの大会に参加させていただきました。私の主な役割は、選手団の方をご案内することや身の周りのお手伝いをするのでした。選手団の皆さんはどの方もフレンドリーに接していただき、毎日を本当に楽しく過ごすことができました。そしてまた、試合の時には私たちのような健常者よりも多くのハンデを抱えているにも関わらず、そのことを感じさせない素晴らしいプレーばかりで、本当に感動しました。そのような選手の方々の一生懸命に取り組んでおられる姿を見て、私も今後様々なことに挑戦していかなければと思いました。選手の方々と交流をした4日間はあっという間に過ぎ、私にとってかけがえのない素敵な思い出、体験となりました。また、自分自身を見つめ直す大変良い機会にもなりました。

前期、後期で1つずつ印象に残っていることを紹介させていただきましたが、その他にも仲間と過ごす日常生活において楽しかったことや心に残ったことが大変多くありました。2年生になればよいよキャンパスも変わり、専門科目を学ぶようになります。そのために、今しっかりと教養をつけなければなりません。2年生になるまでの日々はもう残りわずかですが、充実した毎日を送れるように努めていきたいと思います。そしてこれからもたくさんの仲間と楽しい大学生活を送ってきたいです。

## 2年生だより

歯学科2年 大沢 亜美

こんにちは。今回は主に2年生の夏から後期にかけて、私たちの学校生活について振り返っていきましょうと思います。

講義内容や時間割など、1年次とは大きく異なる歯学部2年生としての日々にもようやく慣れてきた夏頃……。いよいよやってきました、それは一週間に1～2回程度常に試験がある7月、9月の長い長い試験期間です。この期間は先輩方からも口をそろえて大変だということを聞いておりました。その通り、試験数、学習しなければならない量がとても多く常に試験前といった状況が続くため、苦戦を強いられました。内容は専門科目が多く、これから勉強していく分野の基礎となる大切な知識で興味深い内容ばかりでした。こうしてさまざまな未知の分野を学ぶことができ面白かったのですが、私にとって今までの大学生活で最も苦しい時期だったと言えるでしょう。しかし同時に、共に試験を乗り越えようと頑張ったことでクラスの一体感が強くなったことは間違いありません☆

後期になると、試験もひと段落して時間割も変わり、生活にゆとりが出て、それぞれアルバイトに励んだり旅行に行ったりします。

そんな中10月半ばには歯学祭が催されました。個人個人、係りについて仕事をします。歯学祭は



授業中（向かって一番右、大澤）

主に歯学部の2、3年生で運営されています。私は、今年は同じ係りの3年生の補佐的な仕事しかできなかったのですが、来年は中心となって働かねばならないので、よりよい歯学祭となるように頑張りたいです。クラスの中には軽音部での演奏を披露したり、屋台を出している者など、それぞれが充実した時間を過ごしていたようです。

11月になると、フットサル大会やバスケットボール大会、バレーボール大会が開催されました。これは学年対抗でクラスが一丸となってスポーツを楽しみます。クラスメートの普段見ることのできない一面を垣間見たり、珍しい交流が生まれたり……と、協力・応援し合ってより深い絆が結ばれます。また、他の学年の人とも触れ合える大変良い機会でもあります。2年生のこの時期になる



バスケットボール大会



忘年会

と、ようやくそれぞれの学年色というものが見えてきます。学年によって特徴が大きく異なり、とても面白いです。

その頃には、クラスの有志20人弱でボーリングをしにも行きました。上手、下手に関わらずみんなで仲良くとても楽しい時間を過ごしました。ボーリングのピンになってしまったN村君(!)を筆頭に個性豊かな面々ばかりでワイワイ盛り上がりました♪

12月の授業最終日にはクラスの忘年会が開かれ

ました。今回は今までで最もハイテンションな会になりました。テンションが上がりすぎておかしくなった人、若干。(いや……多数)最高に楽しい1年のしめくりとなりました!

こうやって振り返ってみると大学生活でできた思い出はとても多く書ききれません。とにかく伝えたいことは、私たちはこんな感じで信頼できる仲間と共に大変充実した日々を送っています。これからも“今だからこそできる経験”を大切にしていきたいです。



## 2年生の紹介

口腔生命福祉学科2年 菅原清夏

口腔生命福祉学科の2年生の日常を紹介します。

2年生になると、五十嵐キャンパスから旭町キャンパスに移り、勉強の内容も一般教養から専門的なものにかわりました。私たちの授業内容は主に歯科に関するPBLと基礎実習です。PBLとは、少人数のグループに分かれ、与えられた事例に対してその時点で自分たちが持っている知識をもとに討論し、問題を見つけ、解決するという学習方法です。自分たちで討論を進行して学習課題を見つけ出す、という今まで経験したことのない学習方法に最初は戸惑いもありましたが、討論を通して一人では見つけられなかったことを他の人の意見から気付くことができ、また、調べたことや自分の考えを人に説明し情報を共有するので、講義をただ単に聞くよりも記憶に残りやすいです。後期からは、基礎実習や術者役と患者様役に分かれて行う相互実習も始まりました。前期までは講義やPBLで歯に関する勉強をしてきましたが、臨床で使用する器具を使ってお互いの口の中を見ることで、歯科衛生士になるという実感もわいてきました。お互いに練習することによって、術者役では歯科衛生士に必要な技術を習得し、また患者様役としては歯科を受療する患者様の気持ちへの理解を深めています。

私たちはほぼ全員部活動に所属しています。勉強以外でも学ぶことはたくさんあり、私も部活動

を通して良い先輩や友達に出会えました。部活動をしているおかげで充実した学校生活を送れていると思います。

また、私たちは9月に行われた全国障害者スポーツ大会「トキめき新潟大会」のボランティアに参加しました。障害者スポーツというものは病院でのリハビリテーションの一環として始まったと授業で習ったことはありましたが、実際に選手の方々がスポーツをしている姿を見て、ハンディキャップを感じることはまったくなく、楽しそうに試合をする様子にスポーツに対する生きがいを感じました。普段から障害を持つ方と接する機会があまりなかったので、最初は選手の方々が何をしてほしいのか意思を受け取ることが難しかったのですが、一緒にお弁当を食べたり自分や相手のことについて話したりしているうちに、緊張も取れ、少しずつですが選手の方々の意思表示や主張が解ってきたように感じました。私たちができたことといえば声援を送ることくらいでしたが、閉会式の後の別れの際には「ありがとう」や「楽しかったよ」という言葉をもらい、とてもうれしかったです。国体のボランティアに参加できることはめったにないことだし、障害者スポーツを生で見るとも初めてだったので、本当に良い体験をさせてもらいました。今回の経験が、来年から始まる福祉の勉強に役立つと思います。



## 3年生だより

歯学科3年 荒木田 俊 夫

ながつき【長月】

陰暦9月の異称。語源は明らかではないが、中古以来、夜がようやく長くなる月の意の夜長月の略称といわれてきた。(yahoo 百科事典)

なんて書いてあるが、我々新潟大学歯学部生にとってこれは誤りである。世の大学生が「オレら9月も夏休みだぜい、酒だ、酒持ってこい」なんて与太を飛ばしているさなか、我々は毎日のようにテストにおわれる。小学生なんかより遥かに憂鬱な8/31を過ごしているのは言うまでもないだろう。いつになっても終わらない、あまりに長すぎる1ヶ月。そんな意味での長月。それが正解だ。そんな地獄の9月から始まる後期。早いものでもう12月である。今回は簡単に2009年秋～冬、我々3年生の生活を振り返ってみようと思う。

補綴学、う蝕学、保存修復学、歯の形態学、口腔組織発生学。後期に行われた講義の一部をざっと並べてみた。やっと歯学部らしい勉強が始まった、というところである。この虫歯にはこういう材料を使って治すんだとか、この形の歯は第一大臼歯といって、専門的な言葉でカッコつけちゃうと6番って言うんだとか、ザックリ言うとこんな

勉強をしているのだ。今までに比べると内容が濃密になり勉強にも苦労しているが、やっと歯医者スタートラインにたったという気持ちの高揚や自覚の芽生えもあり、なかなか充実した日々を過ごしている。もちろんそれは講義だけではなく、実習でもそうである。2年次より大幅に増えた実習科目のなかで、おそらくここでお伝えすべきであろう実習は歯形彫刻実習（カービング）であろう。歯形彫刻実習とは読んで字の如く、ロウソクのロウのような、ワックスとよばれる棒を、実際の歯の2倍の大きさの模型を見ながら削ったり盛り足したりして同じ形を再現する作業のことを言う。これを3本提出すると、無事テストを受ける権利を得ることができるというシステムだ。3本と聞くとそう難しいものでもないように聞こえるが、これが実にエグい。提出する先生に「ここがもっとグワッと曲がってないとダメ」「なんか汚いからヤダ、ダメ」などという、何ともいい難いダメ出しをくらい、私は結局1本を提出するのに1ヶ月ほどの時間を要した。だいたいみんなもそんな感じで苦戦を強いられている。しかしこれも将来役に立つはずだ、と自分に言い聞かせながら、



これくらい真面目に授業を受けてみたい、と思ったある日の昼下がり



実習前の1枚。実習室が新しくなり、テンション高め、みたいです。

みんなでキズを舐めあい、夜の7時くらいまで講義室でワックス棒と格闘する。ふと気づいたらまたクラスの結束が深まっていた。

私生活にしてもそうだ。今まで1年時から一緒にプライベートを過ごした友人はもちろん、去年はあまり交流のなかったクラスメイト、そして今年の春から入ってきた編入生と触れあうことが格段に増えた。40人という少数の強みが色濃く表れているのだろう。正直思い描いていた、俗に言うキャンパスライフという華やかなものとは程遠い大学生活を送っている私たちだが、これはこれで

一つの大学生生活の形なのだと思う。そしてこの新潟のアホみたいに寒い冬をみんなで鍋を囲み、酒を呑みかわし、ときどき雪と戯れながら過ごしていきたい。

もうすぐ2009年も終わり、来年2月からはテスト月間が控えている。科目数も多く、専門的知識が要求されるものが増えてきているのでなかなか大変だが、我々の本分である学業を怠らずに、この忙しくも充実した3年生の生活をキレイに締めくりたいと思う。

# 大学生活について

口腔生命福祉学科3年 杉山美生

今年の4月に新潟大学口腔生命福祉学科の3年生に編入してから、早くも1年が経とうとしています。入学した頃は、卒業までの2年間、勉強だけではなくプライベートにおいても様々なことを学びながらゆっくり過ごそうと考えていたのですが、その思いとは裏腹に、この2年間はあっという間に過ぎ去ってしまいそうです。

最初にもお話しした通り、私は編入生です。今年の3月までは、歯科衛生士の専門学校で3年間勉強していました。私が編入を決めた1番のきっかけは、専門学校の臨床実習で障害者歯科に配属されたことでした。障害者歯科で実習を重ねていくうちに診療方法の違いや付き添いの人々の様子を見て、障害者の人々を取り巻く環境がどのようなものなのか知りたいと思うようになり、福祉が学べるこの学科に編入して今に至っています。

さて、ここで大学生活について少しお話ししたいと思います。

大学では、編入生は歯科衛生士のカリキュラムを履修済みのため、今は一般教養と福祉の勉強を中心に講義を受けています。月曜日は一般教養受講のため、五十嵐キャンパスで講義を受けます。五十嵐キャンパスはたくさんの学生で賑わっており、広い校舎で大学生気分を味わっています。火曜日から金曜日は旭町キャンパスで福祉分野の講義を受けます。福祉分野の学習方法は、PBLや講義、実習などです。PBLとは、事例をもとにそこに潜む疑問や問題を抽出し、少人数で討論を行う

というものです。文献やインターネットをもとに自主的に問題解決の方法を探るので、大変ではありますが、自ら学習した知識を確実に自分のものにできていると感じています。実習では、先日新潟で行われた、トキめき新潟大会（全国障害者スポーツ大会）に選手団サポートボランティアとして参加してきました。1週間、身体障害や知的障害を持つ選手の方々やそれを支えるコーチの方々と共に過ごし、大会に臨むことで、今までの障害者へのイメージががらりと変わり、楽しく過ごすことができました。とても良い経験と思い出ができたと思っています。

大学以外では、意外と多い空き時間を使って、友達と集まってご飯を食べたりアルバイトをしたりしています。今年の夏休みには、新潟県の出身者が少ない編入生で、「新潟を知ろう!」と佐渡ヶ島へ旅行に行ってきました。レンタカーを借りて、慣れない道を慣れない運転で進むのはかなりスリルがありましたが、佐渡の青い海と綺麗な空に癒されました。

このように、私は今年から新しい環境で様々なことを学び、経験しています。来年からは1年間の大学病院での臨床実習が始まり、直接患者様と関わることで、更に学ぶことや考えることも多いと思います。ですが、支えてくださる方たちに感謝しながら今まで学んできた知識を生かして実習に臨むとともに、将来必要とされる歯科衛生士を目指して頑張っていきたいと思っています。